

2026.7.16 全校集会講話

先ず、今年度ここまで、皆さんご苦労様でした。文化祭や各生徒会行事・そして三年生の集大成の班活動、まだ大会や活動が続いている班は最後までやり切ってください。

君たちの直向きに、向上心を持った取組に敬意を表します。

さて、ここで一つ口幅ったいのですが、小言を言います。

文化祭での忘れ物が多すぎる。そして、それを探して取りに来ない。残念です。もっと自分の持ち物を大切にしましょう。それとも無くしたことに気づいていないのか、残念です。廊下に置かれた、荷物もチャックは開けっ放し、廊下に投げ出されています。三年生の進路の本「後輩たちへのアドバイス」の中にも書きましたが、本当に仕事ができる人の机は、とてもきれいです。また、運動部でも、そのチームが強いかどうかは、荷物の置き方で分かります。もう少し、自分の持ち物に対して、責任持ちましょう。以上ここまでを小言として、本題の話しをします。

それは「仁」についてです。皆さん漢字の「仁」という字は分かりますよね。仁義の「仁」です。「仁」は、儒教の中で中心となる考えですが、はい「仁」の意味は、何でしょう。隣の人と相談してください。

ちなみに中国の孔子は、春秋時代の紀元前 551 年ころから 479 年に生存した人と言われ、日本の邪馬台国の卑弥呼とは約 700 年の乖離があります。やっと日本が国家的なもののできた時代の 700 年前に既に、中国は諸子百家達が活躍していました。当時の本は、竹簡か木簡に書かれ、竹簡は、竹を細く割って、その白い裏に書かれたものをつなぎ合わせて丸めて本にしていたのです。論語は、孔子が書いたのではなくその弟子達が彼の死後、彼の言葉を書き留めたものですが、その思想が、江戸時代の寺小屋で暗唱されていたのは感慨深いものがあります。話がそれてしまったので、戻しますが、さて「仁」の意味。

答えは、一言でいうと「思いやり」「慈しみ」です。現在の定説はそうなってい

ます。皆さん「仁」という字は、人偏に漢数字の「二」ですよ。人が、2人いるときに発生する心が「思いやり」です。これだけでは、浅いので、別の説を紹介しますが、この二が漢数字ではなく、端と端を表す線で、その中間・狭間に人がいる時、現れる何ものかかが「仁」の心との説もあります。ここでは、単純に人が二人とこの字を捉えるとして、では、皆さんここでまた問題。

「仁」＝「思いやり」を遂行するために必要なものは何でしょう。 儒教の中での答えは「礼」です。自分勝手な欲望を抑え、礼にかなった行動をすることが仁である。としています。つまり礼＝思いやりを形にした行動として、「相手を大切に思う心（仁）」があっても、挨拶をしない、感謝を伝えない、相手を尊重する態度をとらないなら、相手には伝わりません。だから孔子は、仁は礼によって表現されると考えたのです。

色々な答えが有ってよいと思いますが、私が考える答えは違います。私の答えは、遂行するためには先ず「想像」することです。相手のことを考える時、必ず必要な力です。この想像力が欠けた時、人は「仁」の心を失います。この力を無駄に使い過ぎると「忖度」です。要らぬ想像力もあるということです。しかしながら、良きこの想像力によって、世の中が「仁」の心で覆われたなら、もっと生きやすい世の中になるかもしれません。この話、実は、始業式で話した「多様性」の前提となる「寛容」と繋がっていると気付きました？途中から気づいた人は立派です。寛容を実現する「仁」の心。人として大切にしたいものです。

ここまで4ヶ月あっという間でしたね。夏休みも何もしていないとあっという間です。そして5カ月が過ぎ、1年の約半分が過ぎます。1日1日「やりのこしたことはないかい」かりゆしの歌ではないですが、後悔しない日々を、前を向いて一步一步進んでください。

以上で、全校集会での話を終わります。

令和8年7月16日（木）
学校長 佐野 浩一郎